



高齢社会を支える専門職の さらなる連携を求めて

おかざき ゆきとも
岡崎 幸友 准教授 (吉備国際大学社会福祉学科)

市内の医療、福祉、介護の専門職のさらなる連携を進めるために、1月13日に高梁総合文化会館で多職種研修会が開催されました。

今回の研修会では、他の職種の役割や専門性などを理解するために「胃がんのため余命2カ月の患者の在宅療養支援」の場面を想定したロールプレイを行いました。退院前の調整会議に、普段、連携をしている他の専門職の立場になって取り組むことで「他の専門職はどのような観点から発言をしているのか理解できた」、また「他の専門職に伝えるには、もっと工夫が必要なことに気づいた」という声上がるなど、**自らの専門性を振り返る機会**となったようです。多職種連携を進めるためには、他職種の職務内容を知り、専門性の理解を深めることで、さらに推進することを改めて確認することができました。



引き続き『**看取りと多職種連携**』をテーマに、^{ふじいもとひろ}藤井基弘先生(医療法人ときわ会 藤井クリニック院長)による講演が行われました。藤井先生は、終末期の訪問診療の取り組みを通して得た多くの経験を踏まえて、これからの在宅医療のあり方について講演されました。「終末期の患者さんの気持ちを大切にすることは、自分の気持ちを大切にすることが大切である」ことや、「終末期の訪問診療では薬の投与によって痛みを和らげる管理も大切だが、同時に、患者さんの話を聞いたり、一緒に活動したりして、その人の生活を感じる大切である」と話され、在宅医療を支えていく専門職にとって大きな指針となりました。また、医療、介護職だけではなく、行政、地域などとも連携していくことの大切さも話され、参加者一同、新たな気づきとなりました。

住みよい街を作るには、安心できる生活基盤の構築が大切です。そのためにも、生活課題を明らかにし、一人一人にそった在宅医療の提供が重要であることを学ぶ研修会となりました。

☎ 医療連携課 ☎ (21) 0304

成羽病院通信

☎ 成羽病院 ☎ (42) 3 1 1 1

検診を受けましょう

内科 那須 龍介

皆さん、毎年検診を受けていますか。

住民健診や職場検診、人間ドックなどで、多くの方は定期的に検診を受けていると思います。血圧や血糖値、コレステロール、便潜血反応、肝・腎機能といった簡単な検査から、心電図、胸部・胃X線、内視鏡検査、腹部超音波検査、大腸内視鏡検査、頸動脈超音波検査、さらには脳MRI検査といった精密機械や専門的な知識・技術を要する検査まで、さまざまな検査があります。

ご存じのように、血圧・血糖・脂質検査などは早期に異常を発見して生活習慣の改善や服薬により脳卒中や心筋梗塞などを防ぐための健診で、すでに治療中の人も多いと思います。

現在、日本人は2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで死亡していると言われていきます。病院で亡くなる患者さんの多くは誤嚥性肺炎やがんの末期の人です。誤嚥性肺炎は老化による脳の機能や嚥下機能の低下によるもので、ある意味、仕方ないとも言えますが、がんについては検診を受けていればというケースも時々みられます。

「検診は検診で受けてください」と患者さんには指導するよう心がけていますが、中には「病院にかかっているんだから大丈夫」と思っている人もいます。保険診療は症状のある病気を診るものであって、検診は別に受けてもらわなければいけません。

血圧、血液・尿検査、胸部X線などの検査ばかりでなく、胃がんや大腸がん検診なども定期的に受けて、皆さんが健康で楽しい老後を迎えられることを祈っています。

